

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400922		
法人名	医療法人 敬和会 近藤病院		
事業所名	ゆうあいグループホーム		
所在地	岡山県真庭市勝山1080番地		
自己評価作成日	平成 30 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;idgyosyoCd=3373400922-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;idgyosyoCd=3373400922-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 3 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の入居者ご本人のその時その時の思いを大切に、時間などにとられない、柔軟な対応を心がけている</li> <li>・法人内に病院があるため、24時間体制で体調不良などの緊急時にも対応をすることが出来る</li> <li>・法人内の保育園と併設のため、子供たちの遊ぶ姿が見えたり、交流することが出来る</li> <li>・庭に小さい畑があり、季節の野菜を育て、収穫を楽しみ、役割を持った張り合いのある生活ができる</li> <li>・地域のボランティアなどの指導による生け花や習字などに参加することが出来たり、入居前に利用していた通所リハビリの利用者と囲碁や将棋を楽しんだりなど、ご本人が今まで大切にしていたことが継続してできるように支援を行っている</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が馴染みの人と交流したり、趣味の習字や囲碁が楽しく継続できるように、日常的に法人内の他事業所へ職員が送迎している。また、法人内の行事に参加したり、併設する法人内の保育園児と日常的に交流したり、地域サロンに参加したりしながら、地域の人と多くの関わりを持ちつつ、地域との関係が途切れないように支援している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、1年の目標を立て、そこからそれぞれの職員が個々の目標設定を行い、日々のケアに繋げている	理念を事務所に掲示すると共に、毎年理念に基づいた目標を掲げ、半年ごとに職員全員で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、地域の方に参加をいただいている。また、地域のお店に入居者と一緒に買い物に出かけたり、お祭りなどの行事にも参加している	近所の商店でおやつを買ったり、隣接している法人内の保育園児とふれ合ったりしている。また、毎週法人内の他事業所に出向き、習字や囲碁を楽しんだり、中学生・高校生のボランティアを受け入れたりするなど、地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンに、入居者・職員と参加をし、ホームで行っている棒体操や頭と体を使ったゲームなど一緒に行っている。また、サロンの参加者にも最近の様子などを伺い、個々に声掛けができるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、警察署、地区部落長、民生委員、家族、入居者、職員が参加し、ホームの取り組みやヒヤリハットの報告、また参加者からは地域の情報など情報交換を行い、運営に活かしている	会議内容は事業所内に掲示すると共に、家族にも郵送している。警察による巡回の強化や行方不明者の届出書の作成など、事業所や家族から出た意見や要望を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議へ参加もらい、実情報告を行い、市からも意見をもらうようにしている。また、市役所で行われる市内のグループホーム連絡会にも参加し、情報交換を行っている	ホーム長が中心となり、事業所の案内や報告を行っている。困難事例や不明点があればその都度、電話したり出向いたりして対応している。半年に1回行われる市主催の連絡会にはホーム長が参加し、情報交換・共有しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できる限り身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合には、ご本人、家族に十分説明し同意を得ている。玄関は、日中は施錠しない	玄関の施錠は行っておらず、センサーを活用している。(家族の同意済み)法人内の身体拘束委員会を中心に年1回、内部研修を行っている。また、外部研修にも参加しており、研修後は報告書を作成し、職員全員で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待防止に対する理解や意識の統一を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度については、法人内で以前研修会等開催したことはあったが、近年は学ぶ機会はもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退院時や看取り時などは、十分な説明に努め、書面にて説明・同意を得ている。料金の改定等は、事前に運営推進会議にて情報をお伝えし、面会時に説明を行ったり、書面の送付等でお知らせし、同意書にてご理解をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を伺うようにしている。ご家族の面会時にも、意見や要望等を伺うように努めている。また、ご意見等あれば職員間にて内容を共有・検討し対応している	面会時や外食会を通じて、家族から意見や要望を聞いている。利用者は日常会話や個別対応時に聞くように努めており、聞いた情報は連絡ノートに記入し、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議にて運営や業務に対する意見や提案を話し合う場としている	ホーム長との面談(年2回)や会議の中で意見や要望を聞き取るなど、職員の声に耳を傾けている。出た意見や提案は、外出機会の創出や電子カルテの導入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤職員・短時間正職員制度の活用や法人内の保育園、職員にとっての環境整備など職員の働きやすい職場作り、満足度の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、月に1~2回程度あり、また法人外研修にも参加できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会に参加し、意見交換会を行ったり、介護福祉士会にて開催している研修会や意見交換会などにも参加を促し、法人の枠を超えたネットワーク作りも推進している		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族とお話しし、思いの理解に努め入居者個々にどのように対応していったらよいか、日々のケアの現場でしっかり関わりを持ちそこで感じたことを他の職員にも伝えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の時にご本人はどのような思いで入居したのか、家族はどのような思いなのか、しっかり伺うようにしている。また、在宅でどのような思いで関わっていたのかなどわからないことは連絡を入れ、ホームでの生活をどうしていったら良いか一緒に考えていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者個々の今までの生活を踏まえたうえで、今の不安や思いをくみ取り、早急な対応が必要な時は、すぐに対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずはご本人の生活を一番に考え、ご本人がどうしたいのか、それを実現するために私たちは何をしなければならぬのか、どのようにすれば出来るのかを考えるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の介護の場面で困った時など、ご家族に相談し一緒に介護をしている視点に立っていただき、共にご本人を支えていけるよう働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前使っていた通所リハビリに行き、なじみの方とお話しし、習字を楽しまれたり、囲碁仲間と囲碁を行う環境を作ったりしている。	法人内の他事業所へ職員が送迎し、馴染みの人と交流したり、趣味の習字や囲碁が楽しめるように支援している。また、家族と一緒に外食したり、家族へ絵手紙を郵送したりするなど、利用者の生活習慣を尊重した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の時間や環境も大切にしながら、日中は皆で体操や歌、手作業などの時間を作ったり、入居者同士と一緒に過ごせる環境作りにも力を入れている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内へ入院や入所をされた方への面会には入居者様と一緒にいき、会話を楽しみお互い励まし合えるような関わりを続けている。また、法人内の行事等で退居されたご家族とお会いすることもあり、声を掛けるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、思いや希望の把握に努め、どのようにしたら希望を叶えることができるのか、ご家族への相談や職員間での話し合いを行っている	日々の会話や個別対応時(お風呂、散歩など)に把握している。また、表情や仕草などから希望や意向を汲み取るように努めている。困難な場合は、家族から生活歴や趣味などの情報を得る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、介護支援専門員、以前の利用サービス関係者などから、情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活チェック表、生活日誌にて職員間の情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは、日々の生活の中で話し、ご家族とは面会時やお電話での連絡時などに意見を伺い、計画書に反映させている。職員間では、日々のケア時にもミニカンファレンスを行ったり、会議にて意見を出し、計画書に反映させている	カンファレンスはケアプラン更新前に職員全員で行っている。モニタリングはホーム長と各担当者が中心となり、3ヶ月に1度行っている。また、見直しは基本、半年に一度行っているが、利用者の状態に合わせてその都度、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック表、生活日誌にて職員間の情報を共有し、日々の実践に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の支援や買い物、また、家族の宿泊にも対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる生け花やギター演奏、尺八や習字など楽しみにされている。地域のお祭りなどにも参加をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回以上の訪問診察、必要時の往診、受診、定期検診を行っている。	かかりつけ医は協力医となっており、専門医への受診はその都度、家族や職員が対応している。夜間は病棟の看護師に連絡しており、日中も含め協力医の指示がいつでも仰げる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて、随時報告や相談を行っている。夜間帯も毎日現状の報告を行い、緊急時の対応を行っている。必要時には、受診の支援も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書や口頭にて情報提供している。また、地域連携室と連絡を取り合い、家族への説明時や退院に向けてのカンファレンスにも参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、急変時の対応については、書面にて意思の確認をしている。また、ホームでの看取りの希望がある場合は、状態により対応している	入居時、利用者及び家族に看取りの指針を説明し、同意を得ている。状態が変化した時は主治医が家族に説明し、関係者が集まり方針を話し合っている。職員は申し送りノートで情報を共有している。また、看取り時の対応方法について医師や看護師から情報をもらったり、日々の会話の中で振り返っている。	内部研修の実施と外部研修の参加に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは、職員が共有できる場所へ貼り、常に確認できるようにしている。また毎年1回は、法人内での心肺蘇生法の研修会に参加し、急変時等の対応等を学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画を作成し、職員と入居者も全員参加した避難訓練を行い消防署からの評価をいただいた。また、地域との協力体制については運営推進会議にて、協力を依頼しているし、こちらもできることは協力したい意向を伝えている	年2回昼夜想定のもと、利用者も参加して避難訓練を実施しており、防署の立ち合いもある。法人全体で行う避難訓練にも参加している。備蓄は法人内にある厨房に確保している。	地域の人へ参加の呼びかけをすると共に、災害訓練の実施に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の人格を尊重し、それぞれに合わせた、言葉かけや対応を行っている	利用者の生活スタイルを出来るだけ尊重している。また、申し送りの際は利用者に分からない様、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中から、思いや希望を聞き出したり、本人の意思に沿った生活となるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が。○○したいという思いに添えるよう入浴時間帯をずらしたり、食事時間をずらしたりなど臨機応変な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪にて、カットや毛染めを行っている。その方その方の思いに配慮し、今回はどのように切ってもらうかなども美容師に伝えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、準備や片付けも手伝っていただく。また月に1度は、季節に合った料理で、何が食べたいかを皆さんで検討し、意見を聞き料理会を開いている。	利用者と一緒におやつや誕生日ケーキなどを手作りしている。毎月1回料理会を開いており、メニューの作成から買い出しまで利用者と一緒にやっている。また、年1回家族と一緒に外食会を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は、材料は業者委託にして管理栄養士の考えた献立で食事をしていただいている。その時の食材に合わせて、一口大にしたり刻みにしたりなど、ご本人の能力や好みに合わせた食事を提供している。食事摂取量など低下してきたときは、協力病院の医師に相談し、看護師、管理栄養士と共に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きのできる方は、口腔ケアの声掛けを行い、義歯などの洗浄がきれいにできているか確認を行っている。また介助の方も個々に合わせ口腔ケアシートなども使用している。必要時には、歯科受診の支援も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に問題のある利用者には、排泄アセスメント・評価を行い、入居者個々が気持ちよく不安なく生活ができるよう支援を行っている。また、排泄用品の使用料金も減額出来ている	個々の排泄パターンを把握し、居室内のトイレで排泄支援に当たっている。布パンツの人も多く、一人ひとりに合ったパットを使用することで、コスト削減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々により違いはあるが、水分は1日1400ml以上の摂取を目指し、便秘がちな方には体操や散歩を促したり、医師・看護師と連携を取り下剤の調整や坐薬の使用を行っている。また管理栄養士、ご家族にも相談し、ヨーグルトやビフィズス菌の摂取をしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な1週間の流れはあるも、その時その時の入居者の状況に合わせて、臨機応変に対応している	午前を中心に入浴支援しているが、利用者の気分や状態に合わせて支援するなど、個々に合わせた支援に取り組んでいる。また、季節のゆず湯など、入浴が楽しくなるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に起床時間などの決め事はなく、その日その日の状態やその時のお気持ちに配慮し、それぞれに合わせた対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報については、カルテにとじ、薬の目的や副作用について情報共有を行っている。薬の変更や臨時薬などがあつた場合は、ケース記録や伝達ノートなどで情報共有し状態の変化がないか様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が今まで楽しみに行っていた事は、出来るだけ継続してできるよう支援している。また、気分転換の散歩や畑仕事など生活に張り合いが持てるよう支援も行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り対応している。しかし、その日の職員配置により難しい場合などは、法人内で職員の応援依頼などできる体制は整えている	日頃から事業所周辺を散歩したり、法人内の他事業所に出かけたりしている。また、当日に利用者の希望を聞いて外出したり、隣接した施設の職員と協力しながら希望に沿った外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームにて管理をしているが、ご本人が不安になったりする場合は、ご家族との相談のもと、ご本人が自分の財布を管理している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参し、外部の方とお話している方もいる。電話をかけたいときなどは、ホームの電話で対応もできる。また、絵手紙を嫁いだ娘さんに送ったこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、採光も取り入れて明るく開放的なホールで、画一性を感じない非対称の構造になっている。外の景色も良く見え、法人の保育園に通っている園児が外で元気に遊ぶ姿も良く見える	ホールには季節の花や利用者の作品が飾られている。また、加湿器や空気清浄機が設置され、温度・湿度共に快適である。窓からは隣接する保育園の園児達の姿や声が聞かれ、利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、席の工夫やソファのスペースを利用し、気の合う方々でゆっくり過ごしたり、自由に過ごせる環境設定を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、亡くなったご主人の写真を持参し、毎朝拝まれたり、本人が居心地良く過ごせるよう支援をしている	テレビやタンス、布団など、使い慣れた物を持参してもらっている。家具の配置は家族と相談しながら、自宅での生活に近づけるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーの環境で、車いすの自走ができる方も、動けるようになっている。また、同意を得られた場合は、居室に表札を設置している		